

(13) 鋳業（非鉄金属製錬・精製業）

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%
: 天気図マーク; ◎ ○ ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要（表-1~3参照）

【銅】17年度の国内需要は、伸銅品で自動車向け以外の製品が伸び悩み、前年度に比べ減少となったが、電線で自動車向け、及び旺盛な設備投資のため建設向けが好調に推移したため、総じて前年度比1.6%増の1,223.1千トとなった。

18年度は、景気の緩やかな回復が見込まれることから、電線、伸銅品とも前年度に比べ需要が伸びると予想し、全体としては1,279.0千トとなる見通しである。

【鉛】17年度の国内需要は、ブラウン管に用られる無機薬品が液晶への転換のため消費量を減らしたこと等の理由から、前年度比7.6%減の162.5千トとなった。18年度の国内需要は、他の需要分野が前年同様落ち込む中、景気の回復が見込まれることから鉛蓄電池向けが増加し、前年度とほぼ同様の165.3千トとなる見通しである。

【亜鉛】17年度の国内需要は、公共投資の削減等により一般めっき向けが減少したこと等から、全体として465.8千トと若干減少した。18年度については、景気の回復に加え、鉄鋼業界のめっきライン増強の影響から491.5千トと前年度に比べ増加する見通しである。

(2) 生産・設備稼働（表-1~3参照）

【銅】生産については、17年度は一部製錬所の能力増強と原料事情の好転から前年度比3.0%増の1,419.5千トとなった。18年度も、一部製錬所が年度の下期に行う生産設備投資による能力増強の影響から、通期で前年度比9.4%増の1,553.0千トの見通しである。18年度の稼働率は、好調な需要が後押しとなり、前年度増の95.4%となる見込みである。生産は増加するものの、国内外で需要が高まると見込まれるため、18年度の期末在庫量は、前年度と比べ100.0千トと減少する見込みである。

【鉛】生産については、17年度は原料事情の悪化から前年度比1.0%減の217.3千トとなった。18年度も原料事情の改善が見込まれないため、前年度とほぼ同水準の217.8千トとなる見通しである。18年度の稼働率も、操業状態が前年度と変わらないと見込まれるため、ほぼ同水準の79.3%となる見込みである。期末在庫量については、18年度は需要の増加に比べて生産が上向き見込みがないことから、12.0千トと減少する見込みである。

【亜鉛】17年度は生産については、厳しい原料事情等の影響から前年度4.0%減の617.6千トとなった。18年度は、国内の鋳山の休止の影響があるものの、亜鉛めっき鋼板向けの内需の増加が見込まれていることから、同1.4%増の626.2千トの見通しである。18年度の稼働率は、生産量の増加分とほぼ同水準増加し、89.1%（同1.5%増）となる見込みである。期末在庫量については、17年度は需要の落ち込み

から前年度に比べ97.5千トと増加したが、18年度は、需要の伸びが生産の伸びを上回ると予想されるため、65.5千トと減少を見込んでいる。

(3) 企業収益（非鉄大手8社、連結ベース：表－4参照）

平成17年度の非鉄大手8社の売上高は前年度比20.9%増の34,275億円、経常利益は同52.6%増の3,604億円と増収増益となった。これは、鉛、亜鉛等主要非鉄金属の買鉱条件の悪化等マイナス要因はあったものの、金属価格の上昇、国内外の旺盛な需要、円安の影響等によりプラスに転じたもの。

18年度については、銅の供給が世界的に改善し、昨年度の増収増益要因であった金属価格の上昇が見込めないとの予想等から、減収減益となっている。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

16年度設備投資は、前年度に引き続き生産能力増強や設備の更新・維持が積極的に進められたが、一部で前年度の投資を下回った結果、前年度比7.3%の減少となった。

17年度設備投資は、好調な業況を背景に、生産能力増強及び設備の更新・維持をより一層進める動きが見られ、前年度比で50.1%増加する見込みである。

18年度設備投資は、引き続き進められる動きがみられ、前年度比で6.3%増加する見込みである。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

17年度は、一部企業で内部資金の範囲を超えた積極的な設備投資を進めるため、借入金を増加させる動きが見られたほかは、全体としては有利子負債を削減する方向で運用する見込みである。

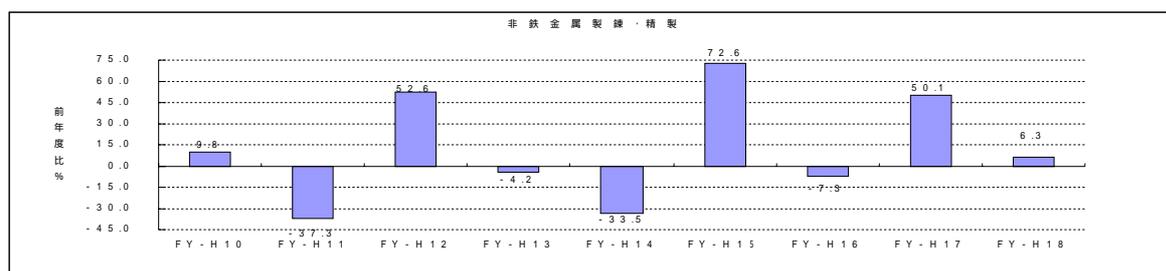
18年度は、設備投資の資金需要に対して、一部に外部からの借入も活用する動きも見られるが、概ね内部資金をメインにする方針に変わりはない見込みである。

(2) 長期資金調達動向

17年度は、各企業とも直接・間接金融のバランスを取りながら、借入金を圧縮させる傾向に変わりはない見込みである。

18年度もほぼ同様の動きとなる見込みである。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)



表－１ 銅地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

	15年度	16年度	17年度	18年度				
				上期	下期	計		
期 初 在 庫	112.8	107.4	127.0	108.4	100.0	108.4		
供 給	生 産	国 内 鉱 出	1.9	0.7	0.1	0.3	0.0	0.3
		海 外 鉱 出	1,233.7	1,193.1	1,251.2	669.7	703.0	1,372.7
		そ の 他 出	192.4	184.6	168.2	90.0	90.0	180.0
		小 計	1,428.0	1,378.4	1,419.5	760.0	793.0	1,553.0
	輸 入	78.3	83.5	73.1	30.0	30.0	60.0	
給 供 給 計	1,619.1	1,569.3	1,619.6	898.4	923.0	1,721.4		
需 要	内 需	電 線	728.6	737.2	767.6	390.0	407.0	797.0
		伸 銅 品	423.5	442.0	438.9	231.0	231.0	462.0
		そ の 他	27.2	25.0	16.6	10.0	10.0	20.0
		内 需 計	1,179.3	1,204.2	1,223.1	631.0	648.0	1,279.0
	輸 出	272.2	201.9	268.4	150.0	170.0	320.0	
要 需 要 計	1,451.5	1,406.1	1,491.5	781.0	818.0	1,599.0		
期 末 在 庫	107.4	110.0	108.4	100.0	100.0	100.0		
過 欠	60.2	53.2	19.7	17.4	5.0	22.4		
設 備 能 力	1,518.9	1,526.4	1,577.9	801.0	826.5	1,627.5		
稼 働 率 (%)	94.0	90.3	90.0	94.9	95.9	95.4		
地金再資源化率 (%)	13.5	13.4	11.8	11.8	11.3	11.6		

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所)業界ヒアリング結果に基づく

表－２ 鉛地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

	15年度	16年度	17年度	18年度				
				上期	下期	計		
期 初 在 庫	18.3	17.9	13.5	14.7	12.0	14.7		
供 給	生 産	国 内 鉱 出	4.7	5.1	3.6	0.5	0.0	0.5
		海 外 鉱 出	99.0	91.8	102.6	51.8	44.8	96.6
		そ の 他 出	123.5	122.7	111.1	59.3	61.4	120.7
		小 計	227.2	219.6	217.3	111.6	106.2	217.8
	輸 入	9.7	10.5	24.6	15.0	15.0	30.0	
給 供 給 計	255.2	248.0	255.4	141.3	133.2	262.5		
需 要	内 需	鉛 管 板	2.9	2.9	2.4	1.0	1.0	2.0
		蓄 電 池	162.1	132.2	132.0	63.1	74.8	137.9
		無 機 薬 品	22.1	24.9	15.7	7.0	7.0	14.0
		は ん だ	6.6	7.0	6.0	2.7	2.7	5.4
		そ の 他	11.1	8.9	6.4	3.0	3.0	6.0
	内 需 計	204.8	175.9	162.5	76.8	88.5	165.3	
輸 出	6.2	2.8	4.0	1.2	1.2	2.4		
要 需 要 計	211.0	178.7	166.5	78.0	89.7	167.7		
期 末 在 庫	17.9	15.0	14.7	12.0	12.0	12.0		
過 欠	26.3	54.3	74.2	51.3	31.5	82.8		
設 備 能 力	274.8	274.8	274.8	137.4	137.4	274.8		
稼 働 率 (%)	82.7	79.9	79.1	81.2	77.3	79.3		
地金再資源化率 (%)	54.4	55.9	51.1	53.1	57.8	55.4		

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所)業界ヒアリング結果に基づく

表－3 亜鉛地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

	15年度	16年度	17年度	18年度			
				上期	下期	計	
期初在庫	85.9	84.6	88.7	97.5	87.8	97.5	
供給	生産	国内鉱出	49.8	52.0	39.3	0.0	0.0
		海外鉱出	477.1	498.3	473.6	269.6	272.7
		その他出	116.7	92.9	104.7	41.4	42.5
		小計	643.6	643.2	617.6	311.0	315.2
	輸出入	38.8	42.9	48.7	27.4	12.4	
供給計	768.3	770.7	755.0	435.9	415.4		
需要	内需	亜鉛めっき鋼	244.3	228.8	217.5	119.3	115.9
		その他めっき	84.1	82.7	74.5	37.3	40.1
		伸銅品	64.5	65.6	62.5	31.2	37.9
		ダイカスト	48.2	48.6	46.4	23.9	22.9
		その他	39.8	50.8	64.9	29.4	33.6
	内需計	480.9	476.5	465.8	241.1	250.4	
輸出入	61.0	62.7	60.1	30.0	29.0		
要需要計	541.9	539.2	525.9	271.1	279.4		
期末在庫	84.6	82.6	97.5	87.8	65.5		
過欠	141.8	148.9	131.6	77.0	70.5		
設備能力	703.2	703.2	703.2	351.6	351.6		
稼働率(%)	91.5	91.5	87.8	88.5	89.6		
地金再資源化率(%)	18.1	14.4	17.0	13.3	13.5		

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所) 業界ヒアリング結果に基づく

表－4 企業経営動向(非鉄大手8社、連結ベース)

(単位:億円、%)

	16年度実績	17年度実績	18年度計画
売上高	28,360	34,275	37,760
営業利益	2,075	2,895	—
(売上高営業利益率)	(7.3%)	(8.4%)	—
経常利益	2,362	3,604	3,596
(売上高経常利益率)	(8.3%)	(10.5%)	(9.6%)
当期利益	912	1,727	1,447
(売上高当期利益率)	(3.2%)	(5.0%)	(3.8%)

(注) 非鉄大手8社決算短信、他決算資料より作成